

### 3 人口構造の分析事例

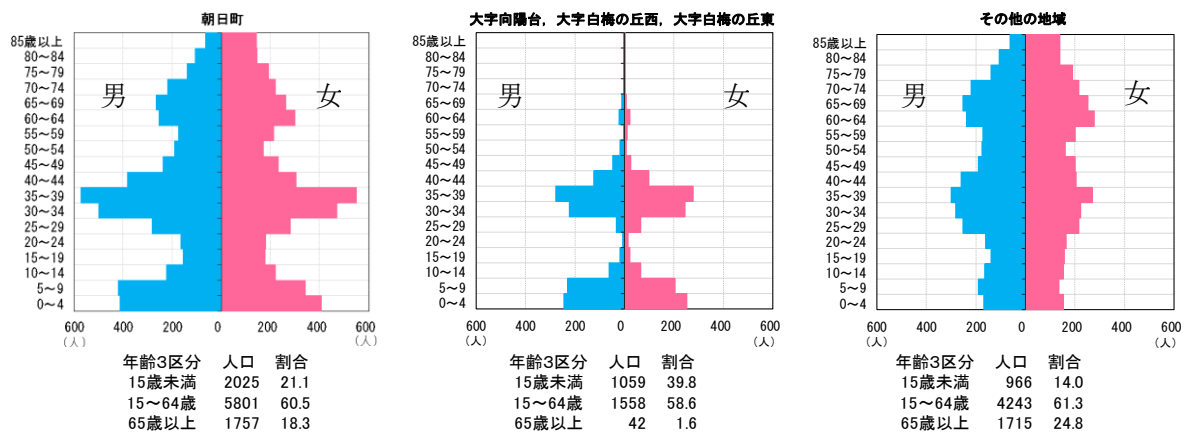
#### (1) 三重県朝日町

朝日町全体の人口構造をみると、30～39歳、10歳未満及び60～69歳を中心に3つの山を持って分布しています。

平成19, 20年の土地区画整理事業により、丘陵地の住宅開発が行われた「向陽台」及び「白梅の丘」地区の人口構造をみると、30～39歳及び10歳未満の人口が多くなっています。

その他の地域の人口構造をみると、15～64歳及び65歳以上の人口に比べて、15歳未満の人口が少なくなっています。

図4 三重県朝日町の人口ピラミッド(平成22年) ※割合は全て、年齢不詳を除いて計算しています。



#### (2) 奈良県野迫川村

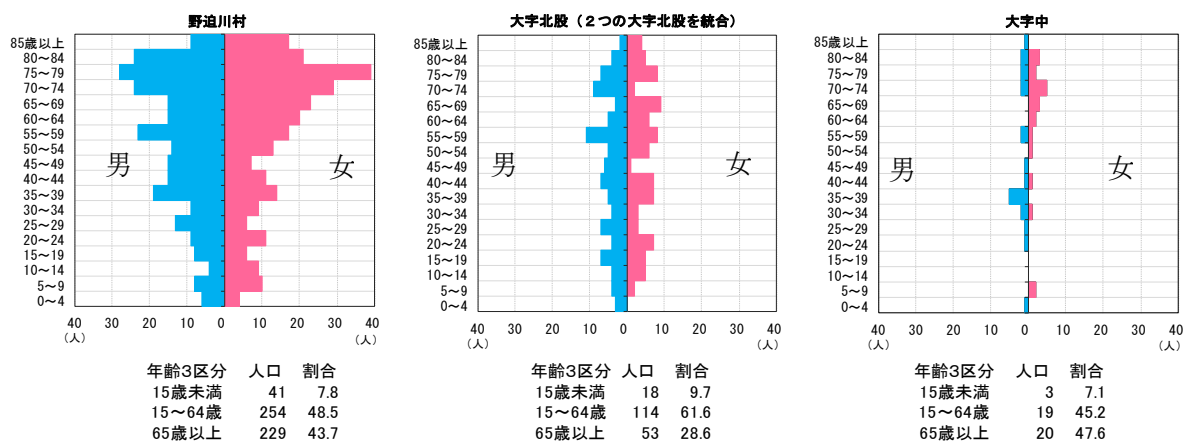
野迫川村全体の人口構造をみると、年齢が高くなるにつれて人口が多くなっています。

平成17年から22年までに、人口が最も減少した大字は「大字北股(2つの「大字北股」を統合)」で、236人から185人となりました。

次いで減少した数が多い大字は「大字中」で、76人から42人となり、約半数の減少となりました。

この2つの大字の人口構造をみると、いずれも特定の年齢階級に山を持たずに人口が分布しています。

図5 奈良県野迫川村の人口ピラミッド(平成22年) ※割合は全て、年齢不詳を除いて計算しています。



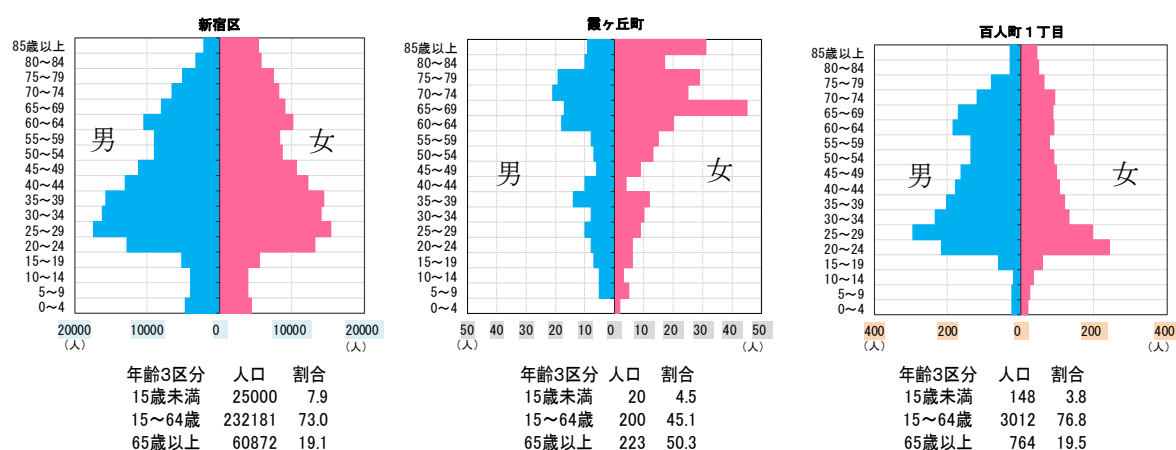
### (3) 東京都新宿区

新宿区全体の人口構造をみると、25歳以上の年齢階級では、年齢が高くなるにつれて、人口が少なくなっています。また、20歳未満の人口が少なくなっています。

新宿区で65歳以上人口の割合が最も高い「霞ヶ丘町」の人口構造をみると、年齢が高くなるにつれて、人口が多くなり、また、男性よりも女性の人口が多くなっています。

平成17年と比べて、65歳以上人口の割合が低下している北西部の「百人町1丁目」の人口構造をみると、新宿区全体と同様、年齢が高くなるにつれて、人口が少なくなりますが、女性よりも男性の人口が多くなっています。

図6 東京都新宿区の人口ピラミッド（平成22年） ※割合は全て、年齢不詳を除いて計算しています。



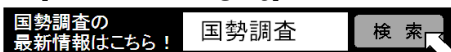
- ◆ 政府統計の総合窓口（e-Stat）内の「地図でみる統計（統計GIS）」のページにおいては、小地域集計結果データと地図データとを組み合わせることで、地理的な分析を地図上で視覚的に行うこともできます。

なお、このページにおける平成22年国勢調査の小地域集計結果の利用は、平成24年4月以降となる予定です。

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/toukeiChiri.do?method=init>

- ◆ 平成22年国勢調査の詳しい結果は、次のURLから御覧になれます。

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>



- ◆ このトピックスは、次のURLから御覧になれます。

<http://www.stat.go.jp/data/topics/index.htm>

- ◆ このトピックスに掲載されている解説文、図等の情報を引用・転載する場合には、出典の表記をお願いします。（表記例）「統計トピックス No.57」（総務省統計局）